

第 10 回 S R A 技術セミナー

高品質のソフトウェアを短期間でリリースする

～派生開発／システム改造／保守の課題の克服～



今日のソフトウェア開発においては、新規の開発ではなく、既存のソフトウェアに何らかの手を加える開発が多くなっています。これは、システム改造、バージョンアップ、エンハンス、保守など様々な名称で呼ばれますが、共通しているのは、「いま動いているソフトウェアに追加・変更を行なう」という点であり、これらをまとめて「派生開発」と呼びます。

派生開発では、設計文書が揃っていない、元のシステムの設計・実装者が担当できないといった状況や、工期が短いにもかかわらず既存ソフトウェアに悪影響を起こしてはならないなど、新規開発にはない様々な課題があります。

今回の技術セミナーでは、派生開発の課題とそれらへの対応方法をご紹介しますとともに、名古屋大学大学院情報科学研究科の森崎修司先生をお招きし、品質確保にとって重要なレビューに関して、派生開発の観点からお話していただきます。

開催概要

日 時 2014年9月5日(金) 14:00 ～ 16:50 <開場 13:30>
場 所 全国情報サービス産業厚生年金基金「JJK 会館」2階 会議室
東京都中央区築地 4-1-14 (地下鉄日比谷線・都営浅草線「東銀座駅」徒歩3分) <http://www.jjk.or.jp/map.html>
参加費 無料(事前登録制) ⇒ 登録先 <http://www.sra.co.jp/seminar/20140905.shtml>
定 員 50名(定員に達し次第、申込を締め切らせていただきます)

講演プログラム

14:00 ～ 14:05 **ご挨拶** 株式会社 S R A 先端技術研究所 所長
中小路 久美代

14:05 ～ 14:45 **講演 1**
「派生開発で高品質、短期間、低コストを実現する勘所」 株式会社 S R A 産業第 1 事業部
コンサルタント 林 好一

派生開発には派生開発向けのプロセスが必要です。いま動いているものに手を加えるので、変更の影響を把握し、不測の干渉が起きないように設計しなくてはなりません。また、期間が短いほど、早期の品質確保が必要になります。本セッションでは、まず派生開発の諸課題を確認し、派生開発に特化した方法論である XDDP の概要を説明しながら、先に挙げた課題にどのように対処していくかを解説します。

14:45 ～ 15:35 **招待講演**
「派生開発におけるレビュー — 早期の品質確保を目指して」 名古屋大学 大学院情報科学研究科
准教授 森崎修司 氏

派生開発/保守開発の開発プロセスが新規開発の開発プロセスと異なるように、派生開発/保守開発におけるソフトウェアレビューも新規開発のものとは異なります。本セッションでは、一般的なソフトウェアレビューに起こりがちな問題を示し、その対策として検出シナリオを用いたレビューを紹介いたします。その上で、派生開発/保守開発での検出シナリオ作成の方針として、拡張、変更部分の欠陥の検出シナリオ、既存部分(母体)と拡張、変更部分の整合性を確認するシナリオに分けてシナリオを作成する方法を紹介いたします。

15:45 ～ 16:30 **講演 2**
「USDM を用いた上流での品質の作りこみ」 株式会社 S R A 産業第 1 事業部
コンサルタント 粟生木 徹

品質の確保には上流での品質を作り込むことが重要です。派生開発でも新規開発と同じく、何をなぜ作る(追加・変更する)のかを明確に押さえなくてはなりません。特に変更の仕様化に関しては、漏れなく、曖昧でなく、理解しやすいように行なう必要があります。これができないと手戻りの大きな原因となります。本セッションでは、要求仕様記述手法である USDM の特徴を解説し、派生開発の変更前と変更後の姿の両方を示すことにより、明確性を確保します。さらに、仕様と設計要素の間のトレーサビリティを確保する方法にも言及します。

16:30 ～ 16:50 **質疑応答**

問い合わせ先 S R A 技術セミナー担当 symposium-info@sra.co.jp

以上